

私の祈り、私たちの祈り

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

聖公会の神学者で、キリスト教社会主義の先駆者として知られる F.D.モーリスは、自己中心かつ利己的な信仰を警戒して次のように述べました。

『あなたが最も孤独な時に、あなたが祈ろうとするならば(中略)あなたは父を呼び求めなければなりません。あなたは「私の父よ」と言おうとしてはなりません。そうではなく、「私たちの父よ」と言わなければなりません。あなたは、真に信仰深い者になりたいですか。しかし、これはあなたの嘆願となつてはなりません。(中略)あなたが霊的にも肉的にも必要としているものが満たされるよう願いますか。その時は、あなたは、あなた自身のことと同じように、あなたのすべての姉妹兄弟のことについても同じように願う必要があります。「私たちの、日ごとの食物を今日も与えて下さい」。あなたは、自分自身の個人的な罪が赦されることを求めますか。しかし、祈りはそれでも、「私たちの罪を赦して下さい」であり、それが、「私たちに対して罪のある者を私たちが赦すがごとく」というようにつながって、一つの環となった時にのみ恵みは与えられるのです。あなたは、あなたの友を誘惑する者だと感じますか。しかし、あなたは、彼らの誘惑とあなたの誘惑は同じものであることを認識する必要があります。彼らが引き起こす、まさにその誘惑のただ中へ彼ら自身が引き入れられないようにあなたは願うべきなのです。さもなければ、他ならぬあなた自身が彼らの誘惑者となるのです。あなたがそこから救い出されたいと祈らなければならぬほどの悪とは、共通の悪だからであり、それは無数の形態を取ったとしても、起源と規範においては同じ悪だからです。まさにそれは私たちのあらゆる祈りを、要求の手段とするような、利己的で、個人的な悪なのであり、もし私たちがすべての根源につながることを学ばないのならば、私たちをすぐに取り込み、私たちを支配しようとする悪なのであるからです。』(「聖公会の中心」W.J.ウルフ編、西原廉太訳、聖公会出版、11～13頁から再引用。傍点は原文のまま)

私たちが毎日のように唱えている「主の祈り」ですが、それは「私」の祈りでありながら、さらに常に「私たち」の祈りにならなければなりません。まさにそこに、いわば「ファーストフードスピリチュアリティ」や「自動販売機信仰」ではなく、聖公会の真のスピリチュアリティがあるのです。